


平成 20 年 6 月 24 日

外務省大臣官房会計課長
齋木 尚子 殿特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長 榊原 日本 N G O 支援無償資金協力事業完了報告書

平成 18 年 8 月 1 日付日本 N G O 支援無償資金協力贈与契約に基づく「ウズベキスタン国の障害児の栄養改善対策事業」（贈与契約上の案件名）が、平成 19 年 12 月 31 日をもって完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

1. 事業の実施期間： 平成 18 年 8 月 1 日 ～ 平成 19 年 12 月 31 日

2. 事業の実施成果（要約）：

プロジェクトは、日本から輸送されたスキムミルクの通関手続きに約半年の時間を要したため、当初予定された事業期間である 12 ヶ月を 5 ヶ月延長して終了した。当初想定したスキムミルクの子ども一人当たり一日あたりの消費割合が実際には約半分であったため、配布対象とする施設や家庭を追加して配布を行ったことから、最終的に 100 トンのスキムミルクの配布は完了した。

慢性的に栄養不足の障害を持った子どもたちが、栄養価の高い食物を得ることができるといふ目的は、プロジェクトによるスキムミルクやその他の食糧の適正な保管・管理、配布作業によって、各施設で適正に食事の準備のためにスキムミルクが使用され、また、栄養のバランスの取れた食事の準備によって、ほぼ達成された。特に、プロジェクトの開始時と終了時に任意に選んだ子どもたちの健康状態の検査において、貧血症状と発育不良に顕著な改善が見られることから、緊急的に施設の子どもたちの栄養状態の改善に際めて大きな効果があったとおもわれる。

また、施設の栄養改善への対策実施能力が強化されるという目的に関しても、プロジェクトの研修などを通して、栄養価の高い食事の準備に関する知識などを習得したことにより、プロジェクトの終了時には各施設において、プロジェクト実施以前に比べて、栄養価の高い食事を子どもたちに提供できるようになったと考えられる。

プロジェクトは、対象となった各施設の障害を持った子どもたちの栄養不足という緊急に解決しなければならない問題点を解決するために実施され、その妥当性が高いといえる一方、スキムミルクの消費量の予想に大きな相違があったことによって配布

する対象を追加せざるをえなかったことから、その計画・立案により慎重を帰すべきであったと考えられる。しかし、子どもの健康状態の改善は顕著であり、その効果、インパクトは大きかったと考えられる。

事業の性格から、緊急人道支援的な要素が多い事業であったため、本プロジェクト内容がそのまま継続されることは期待できないが、能力の向上された各施設のスタッフが、食材調達事情などが改善されたと時に今回の経験を生かすことが期待される。

今後は施設内での子どもへの支援から、障害を持った子どもたちが家庭へ戻り、各家庭やコミュニティの中で希望を持って生きてゆくためのネットワークの構築や地域社会のエンパワーメントを目指した、長期的な視野に立った事業を実施してゆく計画である。一方で、今回のような短期間の食料支援事業を実施した経験は、今後ウズベキスタンで同様な緊急人道支援のニーズが生じた際には、十分生かせるものと期待できる。

3. 日本NGO支援無償資金精算額： 18,759,163 円
(契約額(供与限度額)より1,051,605円の減)

4. 会計報告(事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し)：

別紙のとおり

5. 外部監査報告書作成日：平成20年3月31日

【添付書類】

- ①会計報告関係：事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し綴り
- ②事業の成果(詳細報告書)
- ③事業内容説明写真
- ④子どもたちの健康・栄養状態及び各施設の食事の栄養状態に関する報告書(ロシア語から英語に翻訳したもの)
- ⑤各施設に配布した各食材の栄養素の構成や各食事のメニューについてのレシピーについての資料(ロシア語)

※②～⑤は、3月31日付けで提出済み。

以上

添付資料② 事業の成果（詳細報告書）

1. 事業概要

(1) プロジェクト名称

ウズベキスタン国障害児の栄養改善対策事業

(2) 事業内容

【プロジェクト目標】

首都タシケント市の選定された施設の障害を持つ子どもたちの栄養状態が改善する。

【成果】

- ① 慢性的に栄養不足の障害を持った子どもたちが栄養価の高い食物を得ることができる。
- ② 障害を持つ子供たちが暮らす施設の栄養改善への対策実施能力が強化される。

(3) 事業実施地域

ウズベキスタン国の首都タシケント市

(4) 事業対象者

総合計 9,132 人の子ども達

- ① 7施設: 合計2,912人の子ども達
- ② 15施設: 合計2,968人の子ども達。
- ③ 18つのマハラ(地域共同体)の605世帯: 合計1,210人の子ども達
- ④ 9つのマハラ(地域共同体)の751世帯: 合計1502人の子ども達
- ⑤ HIV/エイズ感染者の家庭、270世帯: 合計540人の子ども達

2. 事業活動

(1) 月別実施活動

年	月	活動内容
2006	8	プロジェクト開始
		プロジェクトスタッフのリクルート作業開始
		各対象施設との調整業務開始
	9	コモデティ・オフィサー、モニタリング・オフィサー1名着任
		コモデティ・トレーナー着任(インドネシアより8月6日出発)
		コモデティ・トレーニング開始
		施設用バナー作成
		スキムミルク出港
	10	スキムミルク、タシケントに到着
		モニタリング・オフィサー2名着任
		1施設の台所の改修が完了
		各施設の調理用オーブンの購入完了、施設への設置も開始 脱脂粉乳保管倉庫の決定

	11	現地より追加の証明書(Veterinary Certificate)の依頼 事業担当者モニタリング出張(~11月15日まで) コモデティ・トレーナー離任(インドネシアへ戻る) 製造会社より Veterinary Certificate 発行され、問題解決 コンテナよりサンプル採取の許可: 現地での安全性検査開始 各施設調理場への冷蔵庫、ミキサーの調達手続きを実施 各栄養補助食品(小麦粉、砂糖、植物油、シリアル)の調達手続きを実施 脱脂粉乳保管倉庫の備品の準備	
	12	現地より脱脂粉乳の有効期限に関する証明書(省令)の依頼 通関のための関係省庁(保健省、教育省、社会労働省など)との折衝 放射線が検出される 以降、放射線検出問題への対応 各施設での調達物資の設置状況のチェック 予算変更にかかる申請書の準備作業(価格調査、見積り取り付けなど)	
	2007	1	放射線検出問題解決 現地より安全証明書の提出の依頼 安全証明書作成、現地へ提出
		2	スキムミルク管理システム研修開始(3月1日まで) 栄養専門家による施設での推奨される食事のメニューを作成 スキムミルク保管倉庫の賃貸の準備
		3	スキムミルク引き取り許可がウズベク政府より発出 しかし、関税局によるサンプルテストのため以前、引き取りできず スキムミルク以外の食料品を調達、倉庫に搬入される 施設の子どもたちの栄養状態のアセスメントを実施
		4	施設での栄養価の高い食事、スキムミルクによる牛乳の準備の仕方の研修を行う 通関手続き期間中、保管していた倉庫より免除されるべき保管料の請求あり、訴訟以外の解決がないため、保管料を支払うことで引き取りを開始。 スキムミルクの通関作業および引取り、倉庫への移送完了 施設の子どもたちの栄養状態のアセスメントおよびサンプルテスト終了
		5	スキムミルクの7施設への配布開始、1週間ごとに各施設に配布 配布実績に基づく今後の配布計画の再調整開始
		6	夏休み期間中(6月から9月までの3ヶ月)里帰りする子どもたち(1,043人)へのスキムミルクの一斉配布
		7	通関遅れのため及び一日あたりの子ども一人当たりの消費量の違い(変更)により、プロジェクト期間の延長(12月31日まで)と配布対象12施設の追加の申請、承認
		8	新規配布対象施設との配布についての調整。新規配布対象施設を15施設に増加
		9	夏休みの里帰りから子どもが各施設へ戻る 新規対象施設を含め合計22施設へのスキムミルクの配布開始
		10	新規対象施設スタッフへの栄養に関する研修実施
11		新規配布対象18つのマハラ(地域共同体)の605世帯への配布	
12		新規配布対象9つのマハラ(地域共同体)の751世帯への配布 HIV/AIDS感染者の家庭270世帯への配布 施設の子どもたちのプロジェクト終了時における栄養状態のサンプルテスト すべてのスキムミルクの配布の完了、プロジェクトの終了	

(2) 期待された成果とその活動結果

成果1：慢性的に栄養不足の障害を持った子どもたちが栄養価の高い食物を得ることができる。

① スキムミルク配布状況

下記の表が、最終的な配布対象施設の種類のスキムミルク配布量である。

当初予定していた子ども一日当たり 200g という消費予想量は、飲料用の牛乳となった場合に約 2 リッターとなったため一日では消費しきれず、当初予定された 7 つの施設では、結果的に 8 ヶ月の配布期間で、スキムミルク総量の約半分である約 50 トンを消費した。一方、残りのスキムミルクは、追加の 15 施設に 4 ヶ月で約 21 トンを、プロジェクト残り期間 2 ヶ月の段階でさらに 30 トン近くのスキムミルクが残る可能性が推定されたことから、急遽ワールド・ビジョンが他のプロジェクトで活動する地域などから配布対象となる家庭を選定し、その地域のマハラ(地域共同体)の 1356 世帯に約 24 トン、HIV/AIDS 感染者の家庭の 270 世帯に配布を行った。

配布したスキムミルクは事業期間中には消費されなかったが、1 月末までに消費される想定で各家庭に配布された。

	子ども数	配布スキムミルク量 (KG)	配布期間
当初の7施設	2,912	50,718	2007年5～12月
追加の15施設	2,968	21,391	2007年9～12月
18つのマハラ(地域共同体)の605世帯	1,210	15,125	2007年11月
9つのマハラ(地域共同体)の751世帯	1,502	9,388	2007年12月
HIV/エイズ感染者の家庭270世帯	540	3,378	2007年12月
合計	9,132	100,000	

② 各施設での栄養価の高い食事の準備状況

まず始めに、栄養専門家によって、スキムミルク配布対象7施設での提供される食事の栄養価についてアセスメントを行い、その結果に基づいて、各施設の調理場のスタッフにバランスの取れた食事の準備について研修を行うと同時に、各施設で利用できる各食材を利用した食事について指導を行った。

また、本脱脂粉乳配布にかかる保管の注意点や食料の準備方法や栄養に関する情報やインストラクションを記載したリーフレットを作成し、各施設において本事業への理解を深めるとともに、実際の食事の準備方法の改善を図り、本事業の効果的な実施促進を図った。また、各施設には ODA のステッカーを掲示するなどして、支援事業の広報にも役立てた。

プロジェクト終了時に、同じ栄養専門家によって同じ7つの施設で提供される食事について、栄養のバランスの面からの評価を行った。

その結果、下記の点が観察された。

- 1) 各施設の提供される食事は栄養的に改善しており、国家が定める一日あたりの炭水化物、たんぱく質、その他の栄養素の標準を満たしている。
- 2) 動物性たんぱく質の不足は1.5-2倍、脂肪は2倍、炭水化物は1.5倍と、それぞれ開始時に比べて減少した。
- 3) ビタミン A、E、D、B1、B6、B12、カルシウム、カリウム、リン酸、その他の微量元素なども増加している。
- 4) スキムミルクなどの食料支援によって、各施設では従来の食事の準備のための予算に余裕が生じ、これによって野菜や果物、ココアなどの食材を十分購入することができ、より多

くの種類に富んだ食事を提供できるようになった。また、提供する回数も3回から5回へ増加した。

以上のことから、各施設では、プロジェクト実施以前に比べて、栄養価の高い食事を子どもたちに提供できるようになったと考えられる。

③ 施設の子どもたちの栄養状態への効果

プロジェクトでは小児科医によって、スキムミルクの配布の開始時と終了時に当初の配布対象であった7つの施設の子どもたちの中で任意に選んだ315人の栄養状態について、身体検査や血液検査によって、その健康状態にどのような影響があったかを確認した。下記の表がその検査結果である(315人の内、6名の子どもは終了時には施設には住んでいなかったため検査はできなかった)

施設名	検査対象の子ども数		貧血症状の子ども数		発育不良の子ども数	
	開始時	終了時	開始時	終了時	開始時	終了時
Mercy House 1	38	32	15	9	21	21
Mercy House 2	23	23	5	0	6	6
Kibray	71	71	65	3	9	9
#105	36	36	28	2	12	2
#102	38	38	15	8	14	9
#124	29	29	16	7	9	7
#98	80	80	21	6	16	9
Total	315	309	165 (52%)	35 (11%)	87 (28%)	63 (20%)

上記の結果では、貧血症状及び発育不良ともに良好な結果が見られた。特に、施設番号 #105 では貧血症及び発育不良の両方において顕著な効果が見られた。また、施設 Kibray では貧血症に顕著な改善が見られている。

基本的に障害を持った子どもたちの発育不良の改善には、より長期間の栄養バランスの取れた食事療法が必要とされている。しかしながら、本事業におけるスキムミルクの配布期間が 8 ヶ月間であったにもかかわらず、栄養検査の結果では発育不良においても 8%の改善が見られると同時に、小児科医の観察によると検査対象の子どもたちの外見に大きな改善が見られたとの報告がなされた。

以上のことから、慢性的に栄養不足であった各対象施設の子どもたちは、このプロジェクトの実施によって栄養価の高い食事を得られるようになり、その結果として、栄養状態も顕著に改善したと考えられる。

成果2: 障害を持つ子供たちが暮らす施設の栄養改善への対策実施能力が強化される

① 施設でのスキムミルクなど食料管理体制能力が向上する

プロジェクトは施設でのスキムミルクなどの食料・食材の保管の方法、配布に伴う記録の仕方などについて、22の各施設のスタッフ合計220人に対して研修を行った。これによって、各施設のスタッフは食料品の適正な管理方法や在庫管理、その記録のつけ方について学ぶと共に、子どもたちの消費状況について適切に知ることができるようになった。

② 施設で栄養のバランスが取れた食事が準備できるようになる

成果1の②で述べたように、22の各施設のスタッフ合計220人に対して、栄養専門家によって栄養のバランスの取れた食事や一週間のメニューについての研修を行った。また、各食材の栄養素の構成や各食事のメニューについてのレシピについての資料(ロシア語)も作成し、各施設のスタッフに配布した(別添参照)。

これによって、各施設のスタッフが今後も食料を適正に管理し、栄養のバランスが取れた食事を準備できるようになったと考えられる。

3. プロジェクトの自己評価

本プロジェクトを評価5項目(計画の妥当性、効率性、有効性、インパクト、自立発展性)によって、以下のように自己評価した。

1) 計画の妥当性

本プロジェクトの対象となった、タンセントの障害児の施設で暮らす子どもたちは、ソビエト崩壊後、十分な食事も満足に与えられず、従来から慢性的な栄養不足に苦しんでいた。また、それらの施設のスタッフの栄養の取れた食事に関する知識が不足していることも大きな原因となっていた。

一方で、当団体では、このような障害を持った子どもたちが非常に厳しい状況下にある施設において、恒常的な障害児の栄養改善やケア、リハビリテーションを行ない、障害児が家族との結びつきを取り戻すことや、地域社会の障害を持った子どもたちを保護し受け入れるようなネットワークの構築などを目指した、長期的な視野に立った事業計画を策定中である。その中で、本事業は、その計画が実施されるまでの間に、社会的に非常に弱い立場にある障害を持った子どもたちへの緊急的は食料配布を行い、栄養改善を図るものであった。

したがって、本事業で栄養不足とスタッフの知識不足という二つの問題点に取り組んでいること、また、今苦しみの中にある未来ある子どもたちを保護し、未来への希望を与えることができたことは、その計画の妥当性は高かったといえる。

しかしながら、スキムミルクの消費予想に違いが生じ、事業後半において追加の配布対象施設などが必要になったことは、計画策定段階でより慎重な調査、立案が必要であったといえる。

2) 効率性

当初予想しなかった通関作業に半年以上の時間を要し、プロジェクト実施機関を当初の12ヶ月から5ヶ月間延長することを余儀なくされたが、プロジェクトは当初の7つの対象施設において子どもたちの栄養状態を改善するという目的を達成した。また、その期間延長に対しても、追加資金なく事業を終了できたことはうまく事業予算を調整できた結果といえる。しかしながら、通関作業のための時間短縮が、同様の事業を行う際の今後の課題といえる。

3) 有効性

上記2. 期待された成果とその活動結果の報告にも見られるように、対象施設の子どもたちに栄養のバランスの取れた食事時を提供することができ、またその栄養状態が顕著に改善したこと、また、各施設において栄養のバランスが取れた食事を提供できるようになったことは、本事業の目的を達成しており、その有効性は極めて高かったと考えられる。

4) インパクト

上記3)有効性でも見られたように、対象施設の子どもたちの栄養状態が顕著に改善したことは、子どもたちの健康に顕著な改善を与えるとともに、各施設のスタッフなどへ栄養のバランスの取れた食事を準備することの重要性を与え、そのインパクトは極めて大きい。

5) 自立発展性

自立発展性の面からみた本プロジェクトのコンポーネントは、各施設の栄養改善への対策実施能力が強化されることを目的とした活動である。一度獲得した知識や経験は各個人個人に残り、継続するものである。そういう意味では、自立発展性があるといえるかもしれない。

しかしながら、スキムミルクという食料支援は今回限りのものであり、その狙いは実施期間の終了時での効果が主たる目的であった。こういった形式の支援には継続性はないし、むしろ緊急人道支援であったといえる。

今後、各施設において食事のための予算の状況が改善し、食材の調達が容易になったとき、今回プロジェクトの様々な研修や活動を通して修得した知識や経験が生かされることを期待したい。

4. 今後の方針

上記の事業の妥当性でも述べたように、今後はこの様な障害を持った子どもたちが非常に厳しい状況下にある施設において、恒常的な障害児の栄養改善やケア、リハビリテーションを行ないながらも、障害児が家族との結びつきを取り戻し、施設から各家庭へ戻ることを促進し、地域社会が障害を持った子どもたちを保護し受け入れるようなネットワークの構築や地域社会のエンパワメントを目指した、長期的な視野に立った事業を実施してゆく計画である。現在のところ、タシケント市内の障害に関わる主要な関係機関により地域に根ざしたリハビリテーションが促進され、各マハラ地域で暮らす障害者・障害児がコミュニティで適切なサービスを受けられるようになることを目指す、コミュニティ・ベースド・リハビリテーション(CBR)促進支援事業を開始する予定である。

一方で、今回のような短期間の食料支援事業を実施した経験は、今後ウズベキスタンでこのような緊急人道支援のニーズが生じた際には、十分生かせるものと期待できる。

以上



通関の許可であるまでの
脱脂粉乳の保管所



コンテナのまま
保管されていた

脱脂粉乳の入った袋



通関手続き中保管されていた倉庫からの搬出



配布期間中にスキムミルクが保管されていた倉庫



搬入時



搬入時



倉庫に保管中の脱脂粉乳



保管管理台帳



保管管理台帳 配布記録



倉庫の施錠状況



配布対象施設のひとつ
(Boarding School #124)



施設での保管状況



ミルクを飲む施設の子ども達



ココアと混ぜてミルクを造る



食事の受け取り口



ミルクを飲む施設の子ども達



施設でミルクを配布する様子



スキムミルクを調合する様子



スキムミルクから飲料用の牛乳を調理しているところ



スキムミルクを混ぜたパンを作る様子



焼きあがったパン



施設の子ども達



Boarding School #124



Mercy House #1